

まちのたから (47) 文化財室通信

シリーズ「日本遺産」最終話

「シリーズ日本遺産」最終回として、日本遺産の現状やその関連のことをお届けします。

「日本遺産」の現在

日本遺産は、文化庁が日本の伝統や文化を世界にPRする「クールジャパン戦略」の文化財版として平成27年度に創設された制度です。2020年までに1000件程度が認定される予定で、現在67件が認定されています。

鳥取県関係では、平成27年度に三朝町の「六根清浄と六感治癒の地」日本一危ない国宝鑑賞と世界屈指のラドン泉、平成28年度に大山山麓地域の「地藏信仰が育んだ日本最大

の大山牛馬市」が認定されています。また、平成30年度には、既に山形県酒田市ほか10自治体で認定されていた「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間」北前船寄港地・船主集落に鳥取市が加わり、賀露港関連の構成文化財が追加認定されました。

認定された関係自治体等は、それぞれの地域の魅力を発信するために協議

会を結成します。各協議会が加盟して構成されている「日本遺産連盟」では、連携した取り組みをしています。その一つに、全国各地の協議会が一堂に会して、各々の魅力発信を行う「日本遺産サミット」があります。今年度は富山県高岡市で開催されました。工芸の町で有名な高岡らしく「体験・体感できる日本遺産」をコンセプトに開かれ、それぞれの協議会が体験ワークショップを行いました。大山山麓地域の協議会では、大山寺の本尊である地藏菩薩を粘土で作る「にぎり地藏」制作体験を出展しました。指跡がお地藏さまの合掌となり、自分と繋がるよう想いを込めて左手で粘土を握り、自分だけのお地藏さまを作る、というものです。楽しそうに粘土を握る子どもや「お地藏さま」という存在に心惹かれた女性など、幅広い世代の方に体験を楽しんでいただきました。

大山開山1300年と今後

大山信仰の拠点となった大山寺は、金蓮上人が養老2(718)年に開



▲「にぎり地藏」制作体験

いたと伝えられており、これを契機に伯耆国「大山開山1300年祭」としてさまざまな事業が行われてきました。もともと、平成27年度に日本遺産への取り組みを推進することになったのは、この1300年祭を盛り上げるべく、観光事業展開をしていくためでした。

文化財行政の立場は、地域の歴史

を見つめ、掘り起こして後世へ伝えていくことです。博労座で行われていた大山牛馬市は、現存しない点で「埋もれていた地域の歴史資源」とも言えます。

文化財保護法が平成30年6月に改正され、平成31年4月に施行されます。この中には、地域振興に寄与する総合的な保護と活用のこと、文化財行政のマスタープランとなる文化財保存活用地域計画(「地域計画」)策定のことなどが謳われています。「地域計画」策定には、町内の未指定を含む有形・無形の文化財の総合的な把握と価値付けが欠かせません。日本遺産の取り組みは、この作業の一つとも捉えられます。今後も、地域振興の視点での文化財保護と活用の取り組みを進めていきます。

(社会教育課 文化財室)

全国大会出場者を応援します!

応援ポスターの運用について

大山町・大山町体育協会では、全国規模のスポーツ大会へ出場される方のポスターを掲示して応援します。

◆運用の原則

対象は体育協会、スポーツ少年団、その他推薦のあった児童生徒です。

※所定の様式により申請があったものに限りです。

◆その他

文化系の全国大会へ出場される場合についても応援します。

◆問い合わせ先

社会教育課 生涯学習室

☎0859-54-5212